



うすい

雨水（18日）… 池の横のコブシのつぼみがふくらみ始めます …

雨水は、空から降るものが雪から雨に変わり、氷や雪が解け始める頃のことです。山に降った雪がゆっくりと解けて、田畑を潤すため、この時期に農耕を始める時期の目安とされてきたそうです。幼稚園の畑で育てた冬野菜もそろそろ収穫してみようとしています。

## <土脉潤起 つちのしょう うるおい おこる 2月18日～22日>

雨水の初候は「土脉潤起」です。脉とは、脈の異字だそうで、うねった大地や山肌に、雪解け水などが浸透して潤う様子を表しているのだそうです。

## <余韻の中での交流>

生活発表会の後、学年間の様々な関わりが見られました。週明けには、遊戯室に年中児が何人も出向き、年長組が使っていた劇の大道具や衣装などを借りて、劇の一部をやらせてもらって大喜びでした。年長児も衣装を着せてあげたり、セリフを教えてあげたりすることがうれしそうでした。園庭では、年中児が自分たちが使っていたコックの帽子や小道具などを年少児に貸して、手伝って被せてあげる姿がありました。お面や小道具を小さい子が使いたいかもしれないと、園庭に運んでおいたのです。被せてもらった年少児は、喜んで身に付けてレストランごっこなどを楽しんでいました。

## <日々の生活の中で引き継ぐ>

年中児は、1月の誕生会の司会の仕方を年長児から教えてもらい、年長児の劇のかっこいい姿を見て、憧れの気持ちを高めていました。さらにその子たちが小学校に行ってしまうことを知り、うさぎの世話などの仕事を今度は自分たちがしなくてはと気付き始めました。最初は年長児の世話をする様子を見ていたのですが、すぐに教えてもらうようになり、日々の当番活動の際に教えてもらうようになっています。

## <憧れの気持ちから>

年上の子たちの姿を見て憧れる気持ち、教えてもらったうれしさは子どもたちの大きな宝物です。今の年長児が下の子たちにいろいろと優しくしているのは、自分たちが去年まで同じように先輩と一緒に楽しい活動をしたり、教えてもらったことが土台になっているのです。今年は自分たちがそろそろ年長になることを意識し始めて、自分たちから教えてもらいに行く姿をうれしく思っています。



アリババの衣装を年中児に着せてあげて



11匹のねこのローラーは大人気



年中児が年少児にお面や衣装を



自分がしてもらったことを今度は下の子に



靴箱の掃除は小さな箒を使って



みみくんの世話も教わっています



園長用のお面を作ってくれた年長児